

ていばーく所蔵錦絵紹介（保永堂版③）

東海道五拾三次之内 白須賀 汐見阪図（静岡県湖西市）



遠州灘を雄大に見おろす汐見坂（現在の潮見坂）からの景色を描いています。

白須賀宿は、以前坂の手前の海辺近くにありましたが、宝永4（1707）年の大地震による津波で壊滅したため、翌年、汐見坂の上に移されました。

この地は、京から江戸へ向かう旅人が初めて太平洋を見る場所で、晴れた日には富士山も見えたようですが、大名行列はわき目も振らず整然と坂を下っています。

ていばーく所蔵資料紹介④

郵便貯金奨励双六



双六の歴史は古く、奈良時代には既に流行していたようです。現在のような紙に印刷された絵双六は、江戸時代中期から錦絵の流行とともに登場し、お正月の子供達の室内遊戯として親しまれるようになりました。

明治維新後は、文明開化、官位の昇進、旅行など様々なものが題材となり、雑誌の附録や周知品としても盛んに作られました。その中には郵政事業を題材とした双六を発見することができます。

この、郵便貯金奨励双六は、振出しの貯金窓口から上りの公債購入（お正月の場面）までに、貯金のサービスが事例ごとに分かりやすく説明されています。

（錦絵 / 資料解説：附属資料館 井上卓朗）